

平成30年度 学校評価

1 教育方針

校訓「労学一如」の精神を念頭におき、生徒たちが、自ら実践している仕事と学業の両立を支援し、汗して働き、意欲を持って主体的に学ぶ態度を育成する。さらには、一人一人が社会を構成する一員としての責任を自覚し、集団生活を営む上で必要な基本的生活習慣や規律、基礎学力の習得を行い、将来の地域社会の担い手となる生きる力を培った人材の育成をめざす。

2 教育目標

- 1 「確かな学力の習得」
- 2 「社会性の涵養」
- 3 「将来を切り拓く強い心の醸成」

3 平成30年度の重点

ア	生徒の実態に応じた指導体制の確立
イ	体験活動を通じたキャリア教育の推進
ウ	安心・安全な学校づくりの推進
エ	広報活動の推進と地域・家庭との連携
オ	学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

4 学校自己評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
教科指導	基礎的・基本的事項が定着するよう教科指導に努める	ア	習熟度別指導や同室複数指導の効果的活用 学校設定科目の指導内容及び指導方法の研究・開発を期す	A	道徳教育の観点から、遅刻・早退・中抜けなどの怠学に対して、制度的な改善策を設ける。また、学習意欲の喚起・増進のため、学習環境の整備や指導方法・評価方法の改善に取り組む。 総合的な探求の時間の定着をはかるとともに、キャリア教育に留意して教科指導をおこなう。
	生徒個々の能力・適性を伸ばし、自ら学ぶ意欲と態度を養う	イ	キャリア教育を見据えて教育課程を編成、運用する キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間を展開する	B	
	「わかる授業」にむけて、授業研究や教材開発を行う	オ	公開授業・研究授業を組織的に行う 授業アンケートを行う	B	

生徒指導	規律ある生活習慣を身につけさせ、規範意識を高める	ア	学校生活における、喫煙・ゴミのポイ捨て・スマホの使い方に対する指導を充実させる	B~	「生徒心得」など内規を見直し、具体的で明瞭なルールを設け、従来の自己有用感や自己肯定感を育む指導の上に、キャリア教育にも留意して、学校生活において規範意識が醸成される実効性のある指導を全職員でおこなう。
	生徒が主体となる活動を企画・推進した	イ	クラス企画を主とする文化祭を実施する	B	
		ウ	清掃活動、ボランティア活動等の充実		
	生徒とのふれあいを密にし、多様な生徒の内面理解に努める	エ オ	学校いじめ防止基本方針の「早期発見・早期対応・未然防止」の取り組みを実行する	B	
進路指導	計画的な進路指導を行い、進路意識の高揚を図る	イ	学年毎のキャリア教育プランを見直す	B	キャリアシップなど進路指導の取り組みの共通理解を深め、総学や特別活動を展開する。 キャリアシップの維持・改善に取り組む。キャリアシップの取り組みをインスパイア・ハイスクール事業に申請し、外部資源の積極的な活用をはかる。
			進路ガイダンスや進路LHRを適宜行う		
	個々の生徒に適切な指導が行える指導体制を確立する	ア	組織改編を指導体制の充実に活かす	A	
		エ	キャリアシップを通して生徒の職業適性をはかる		
キャリア教育の一環として進路指導を推進する	イ	学校設定教科「社会への扉」等の教科指導や総合的な学習の時間の指導と関連をはかる	B		
環境整備	防災体制の整備・充実を図る 施設設備の整備・充実を図る	ウ ア	避難訓練の振り返りを行い、防災マニュアルを不断に見直す 錦城園、図書室の整備・充実を図る	B~	錦城園の位置付けを明確にし、分掌上の手立てをおこなう。読書教育の観点から図書室の活用法を考える。
特設課題 (心のサポート)	各指導領域の関連を整理し、指導体制の確立を図る	ア	「高校生」や「Q-U」を効果的に活用する	B	学級編成や個別の進路指導、三者面談等で「Q-U」を活用する。 今日的な教育課題についての講演会を引き続き実施する。
	新しい生徒指導の知見を習得し、指導力の向上を図る	オ	外部講師を招聘するなど職員研修会を充実させる	A	

5 学校自己評価に対する学校関係者評価

教員評価は少し辛いのではないか。生徒・保護者アンケート結果からはキャリアシップなど高く評価されている取り組みもある。一方、学校には「鍛える」という観点も必要で、評価項目に反映できないか。また、教職員集団のあり方と学校の評価は密接に関連していることに留意して教育活動を行っていただきたい。